第10巻　第2号（通号112号）　　発行日2026年10月30日（不定期）

HP：https://rakuno.org/

同窓会通信 －野幌だより－

酪農学園同窓会ニュースレター

高校・短大・大学　同窓生関連の最近の話題

トピック（スケジュール）

10月03日　獣医27期同期会
10月03日　青森県支部総会
10月03日　札幌支部総会/ミニサロン
10月09日　獣医学科三愛賞授賞式
10月11日　大学アーチェリー部同窓会
10月11日　附属高校1987年度同期会
10月11日　獣医17期40周年同期会
10月11日　獣医学類1期10周年同期会
10月13日　短大Ⅱコース12期同期会
10月15日　獣医学科11期同期会
10月19日　機農酪経6期生同期会
10月21日　肉製品ゼミ8,9期同窓会
10月28日　獣医学科7期生同期会
11月01日　獣医解剖学同門会
11月02日　短大７８４の会
11月04日　短大Ⅱコース６期同期会
11月10日　短大１８期生同期会
11月11日　短大Ⅱコース９期同期会
11月14日　道南地区同窓会
11月14日　東北地区福島県支部総会
11月14日　中国地区鳥取県支部総会
11月28日　獣医宮城県支部研修会
12月12日　農経1993年度30周年同期会



近畿地区兵庫支部第８回総会・懇親会開催報告



令和８年８月２９日（土）、湊川神社楠公会館を会場に第８回総会・懇親会が開催された。１０時半から総会、大学及び同窓会近況説明、１２時２０分から２時間に亘り懇親会が行われた。

出席者は兵庫県支部会員２５名、近畿から山本浩光地区長をはじめ吉田文三大阪府支部長、福永裕一京都府支部長、里田春男滋賀県支部長、梶山佳幸奈良県支部長、大学から岩野英知学長、同窓会から中出哲也副会長が出席された。

総会は、池内俊久議長を選出し、令和７年度の事業報告、会計報告・会計監査報告に続き、令和８事業計画案、予算案を審議していただいた。特に異議はなくすべての議事が無事可決承認された。

約１０分の休憩・準備の後、大学の現況説明を岩野学長にしていただく。日本の高校生の減少状況による入学減（獣医学類以外）、加えて知名度の減少、大学経営の厳しい状況、そして、IT技術を取り入れた農業を学ぶ新学類設置、教職員の給料・定数削減、大学名の変更等、髙島新理事長を中心とした課題解決策の進捗状況、これからの取組（創立100周年に向けて）をPPTで分かり易く説明された。

続いて同窓会の近況を中出副会長が用意された資料を基にPPTで説明された。同窓生は、最大のスティックホルダーであり、酪農学園の「財産」であるとの視点から潜在的な力（経営支援・広報支援・入試支援、教育支援、就職支援、顧客支援、寄附支援等）を大学経営改革と関連して分かり易く説明された。

記念撮影に引続き、同会場で懇親会が開催された。小河会長の開会の挨拶、岩野学長、中出副会長の祝辞に続き、山本地区長の乾杯の発声で懇親会が開始され、終始和やかな雰囲気で大変盛り上がった。

全員がスピーチ！！出席者の大学時代の思い出話、大学への思い、近況等がユーモラスに話された。また、大学の名称変更については、懸命に経営を立て直そうと努力している大学に任せようとの意見が多かったように思われます。最後は全員が円になり肩を組んで酪農讃歌を熱唱、伊南副会長の閉会の挨拶でお開きとなった。

酪農学園同窓会の現況(卒業生数)2026.04.01

２０２５年度　累計卒業生数

大学院　計	１，８１２名
大　学　計	３５，５４４名
短　大　計	９，４８７名
高　校　計	２２，５８４名
合　計　計	６９，４２７名
酪農義塾 計	３０３名
酪農学校 計	＊９１，５１７名

＊　出典酪農学園史２巻より

総合計　１６１，２４７名

地区支部の設置状況（　）は未設置

北海道１区：石狩　３支部（１）(江別)
北海道２区：道央　６支部（２）(空知1)(胆振2)
北海道３区：道南　５支部（２）(後志1)(後志2)
北海道４区：道北　６支部（１）(留萌1)
北海道５区：道東　６支部（０）　２６支部（6)

東北地区　：　６支部（０）
関東甲信越地区：１０支部（０）
中部地区：　７支部（０）
近畿地区：　６支部（０）
中国地区：　５支部（０））
四国地区：　４支部（０）

目次：

近畿地区兵庫県支部総会　1
獣医学科第12期生同期会in盛岡　2
菊池直哉先生三愛特別賞祝賀会　2
獣医学類１期(４８期)同期会　3
獣医学科17期生同期会　3
石狩地区札幌支部総会・ミニサロ　4
編集後記　4

同窓会開催報告

獣医学科第12期生卒業47周年記念同期会　in 盛岡



2026年９月6日、盛岡市ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING11階ギャラクシーにおいて同期生39名が参加した。1名は急性胃腸炎で残念ながら急遽欠席となりました。南は九州・熊本県、北は北海道・名寄、上湧別から参加がありました。中には函館大沼から新幹線を利用して、後ろ髪を引かれながら、悔しい思いで日帰りした強者もおりました。

最初に集合写真を撮影（島垣君、写真入ってなくてごめんなさい）した後、本会場に移動した。会のはじめに残念ながら逝去した13名の同期生を偲んで黙祷を捧げた。

発起人を代表して佐々木一弥君から歓迎の挨拶をいただきました。乾杯の後は私、中出が「酪農学園の現況」のタイトルで、現在、置かれている高校、大学の現状を報告した。今後、酪農学園の永遠の発展のために卒業生ができることを参加者にお願いして講演を終了した。

その後、皆さんが待ちに待ったミスさんさ5名による「歓迎のさんさ踊り」が披露され、太鼓と横笛の音色に合わせて、会場いっぱいに華やかな演舞が繰り広げられました。
歓談が弾んで、参加者の近況報告となり、2時間は瞬く間に過ぎ、中締めの時間となりました。

最後に円になり全員肩を組んで、賀川豊彦作詞の「酪農讃歌」を3番まで合唱して一次会を終了しました。ついで会場を移して、参加者全員が３階星雲の間に移動し、二次会に移りましたが、話がつきる事はなく、あっという間に楽しい時間は過ぎていきました。

3次会は元気が有り余っているグループでそれぞれの場所に散りましたが、そこでやっと大野君の筋肉自慢が披露されました。大盛り上がりでした。平井君、次回はぜひ参加してくださいね。

幹事を務めてくれた佐々木君、押部君、本当にありがとうございました。

来年は沖縄開催の希望があったので、那覇在住の大野（旧姓船木）さんに相談して、長浜君のサポートもいただきながら、2027年獣医学科第12期生卒業48周年記念同期会 in 那覇開催を目指したいと思っています。皆さん、また来年も元気で集まりましょう。　（文責　中出　哲也）





菊池直哉先生特別三愛賞受賞祝賀会報告



２０２６年１０月１０日（土）、ANAクラウンプラザホテル札幌において菊池直哉先生特別三愛賞受賞祝賀会が開催されました。

菊池先生におかれましては　４２年にわたり酪農学園大学獣医学科・学類で研究者として、教育者としてご活躍され、約５千人の獣医師を世に送り出し、また、大学及び同窓会の発展に大きく寄与した功績から１０月９日に獣医同窓会長から特別三愛賞を受賞されました。

このことから、今回の祝賀会には６年制１期（通算１５期）から３４期（４８期）までの卒業生６２名が全国から参集して菊池先生をお祝いしたところです。会場には遠く中国から趙宏坤先生も出席され大いにお盛り上がりました。

祝賀会では獣医伝染病学教室出身の梅原君が同日に三愛賞を受賞した報告と急遽亡くなった高橋晃一君の紹介があり、その後、発起人から、これからも先生御夫婦の健康を願って「BAKUNE」(リカバリーウエア)２着を記念品として贈呈、趙先生からは１００歳まで生きるとする怪しい漢方薬、その他出席者が持参した記念品等を先生にお渡したところです

会場では、檀上でそれぞれ年代の近い卒業生らが先生を囲んで記念撮影を撮ったり　奥様との歓談を楽しんだりと　楽しいひと時を過ごしました。最後に、櫛渕君の音頭で酪農讃歌を肩を組んで歌って、会は無事終了しました。

次回は菊池先生の傘寿あるいは米寿のお祝いで集まることを約束して解散となりました。（文責　横山敦志）



同窓会開催報告

獣医学類1期（獣医学科48期）同窓会 開催報告



2026年10月11日（日）、獣医学類1期（獣医学科48期）同窓会が開催されました。

【昼の部：キャンパス・スキルスラボ棟見学】 同日昼の部には17名の同窓生が参加し、本学スキルスラボ棟の見学を行いました。国際的な獣医学教育認証であるEAEVE（欧州獣医学教育推進協会）取得に伴い新たに整備された最新の実習施設を見学いたしました。充実した各種模型や先端設備に一同感嘆し、「いまー度、学生としてこの場所で学び直したい」という声も上がるなど、母校の著しい発展と進化を身をもって体感する貴重な機会となりました。

【夜の部：懇親会】 夜の部では会場を「ジャスマックプラザホテル」に移し、同窓生44名、ご恩師4名の計48名が参加して盛大に懇親会が開催されました。 ご出席いただいた田村先生からは「これからの10年があなたたちの今後を決める重要な時間です」という言葉を頂戴し、身が引き締まる思いを抱きました。また、変わらず私たちを導いてくださる樋口先生、山下先生、廉澤先生のお話に心が温まりました。

久しぶりに再会した仲間たちと近況や思い出を語り合い、互いの活躍を誓い合う大変有意義な同窓会となりました。さらに夜は懇親をさらに深め、「また10年後！」と再会を誓い合いながら別れにつきました。（文責 千里今日子）





獣医学部獣医学科17期40周年同窓会開催報告



2026年10月11日（日）札幌市のホテル札幌ガーデンパレスにおいて獣医17期40周年同窓会が開催されました。全国各地から43名の同期生が集まり開会前からホテルロビーで話が盛り上がっておりました。

開会に先立って記念写真を撮影し、その後、木村真君の司会進行で会が始まりました。木村君は10周年の時からずっと司会進行役を務めてくれています。続いて幹事代表挨拶を南佳子さんが行い、幹事6名（板坂、柄本、木村、西、前谷、松尾）もともに壇上に上がりました。続いて岩野英知学長（27期）に大学の現状説明についてスライドを使って説明していただきました。岩野学長は大学存続のため必死で頑張っていることが皆さんに伝わったと思います。

乾杯の発声は、中尾敏彦先生に行っていただき、“酪大生”ビール（江別産小麦を使ったクラフトビール）で乾杯しました。乾杯後は、参加していただいた恩師の加藤清雄先生、菊池直哉先生、桐沢力雄先生、中出哲也先生に近況等のごあいさつをいただきました。特に菊池先生におかれましては、特別三愛賞を受賞されて3日連続での祝賀会参加で大変お疲れの中で参加いただき感謝しております。

その後は休む間もなく出席者全員から一言近況挨拶をいただき予定時間を大幅にオーバーしました。最後は、定番の酪農讃歌。加藤先生のリードで皆が肩を組んで一斉に歌い一次会が終了しました。

一次会の終了時には、岩野学長が持参された酪農学園グッズのTシャツ、パーカースウェット等々の即売会が行われ、参加者の多くが買い求めていました。　二次会は、引き続きホテルの別会場で行われ、皆さん話し込まれていました。

その後は、希望者20数名で近くの居酒屋に行き23:00頃に閉会となりました。30周年の時には朝まで多くの方が残っていましたが、皆さん体力が落ちてきたせいでしょうか、早めの解散となりました。

さて、17期の皆さん！次回は3年後に岐阜県下呂温泉で予定されるそうですよ。（文責　17期　松尾直樹）



〒069-8501
北海道江別市文京台緑町582
酪農学園同窓会
電話 011(386)1196
FAX 011(386)5987
Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.

酪農学園同窓会

酪農学園100周年記念寄付事業

創立100周年記念寄付事業
2024ホームカミングデー チャリティTシャツ募金

2,000円で購入いただくTシャツの一部が募金になります。
Tシャツ原価を引いた1,000円程度が
学校法人酪農学園 創立100周年事業への寄付になります。



Tシャツの色：ネイビー
左胸ワンポイント
・背中A4サイズ程度（白プリント）
※画像はイメージです。実際の生地の色やデザインが変わることがあります。

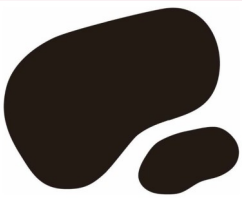
募集要項(7月よりホームページにて全文公開)
1. 募金の名称 創立100周年記念事業募金
2. 募金の目的・使途
施設の大規模改修・再編
(1) 大学：研究・実習施設の整備・新設、事務管理棟の集約化など
(2) 高校：基本方針として、現有施設を活用し続けるための計画的改修など
(3) 附属施設：旧精農寮保存のための改修、馬術部施設の移転・新設、研修館周りのインフラ整備など

問合せ先：事務局財務課　011-388-4148（寄付担当）



酪農学園大学
ブランドマークとキャッチフレーズ

**生きるを学ぶ。
学びが生きる。**



札幌支部総会・ミニサロンの開催報告



2026年10月3日（土）13:30から、酪農学園大学研修館 2階会議室において2026年度酪農学園同窓会札幌支部総会およびミニサロンを開催いたしました。

総会は、出席者23名（役員9名、委任状10名、その他卒業生等4名）および来賓として酪農学園同窓会事務局長浦川利幸様のご出席を賜り行われました。下田支部長挨拶、来賓挨拶に続き、第1号議案から第4号議案まで、報告、説明を行い、いずれも承認されました。

総会に続き、ミニサロン「現代を見据えた健土健民論」を開催しました。2026年に創立93周年を迎えた酪農学園は創立以来、一貫して資源を循環させて自然環境への負荷を考慮した「循環農法」を教育の基本とし、北海道の酪農の発展に貢献してきました。それは、創立者黒澤酉蔵の理念である「健土健民」、すなわち「健やかな大地は、健やかな食を生み、健やかな生命いのちにつながる。その循環を育みつづけ、より善い社会をつくる。」を継承するための歩みそのものです。

今回のミニサロンでは、始めに酪農学園大学名誉教授の安宅一夫先生から、創立者黒澤酉蔵の健土健民論の理念についてご講演いただきました。黒澤酉蔵が「循環農法図」を示すまでの背景や、「循環農法図」に示された考えは、近年、世界で注目されているリジェネラティブ農業にも通じるものであることなどをお話しいただきました。

その後、下田支部長の進行で、会場からの質問を交えながら、酪農学園の理念である「健土健民」が高校教育、大学教育でどのように取り上げられているのか、「健土健民」を世の中へ浸透させるためには何が大切なのかについて話し合われました。

酪農学園同窓会札幌支部では、今後も、様々なテーマのミニサロンを開催し、新たな同窓会活動を模索していきます。

（文責　事務局長　中山）

編集後記

錦秋の秋も大雪山系から徐々に平野部にも降りてきています。これに初冠雪も加わり、道内は秋も行楽シーズンを迎えています。学園構内では10/4に恒例行事の「動物愛護フェス」も開催され、5,000名以上の来場者があったとのことです。（詳細はHPをご覧ください）。

これから１１月にかかえて同期会や同窓会の開催予定が目白押しです。盛会裏に終了することを願っております。

実りの秋を迎え、全国各地で収穫祭が開催されています。お米の値段もそれなりに落ち着いてきていますが、稲作農家にとっては、資材高騰の折、今後の生産者米価の動向が気になるところと思います。

附属高校の野球部が10/15選抜全道大会決勝で惜敗しましたが、決勝進出は快挙です。全国出場も現実味を帯びてきました。目指せ、甲子園球場！